

Ⅱ 「平成21年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

《基本方針》

現行学習指導要領の「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえる中で、新学習指導要領への移行を考慮し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成そして信頼される学校づくりの実現を通して、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくりを目指します。

《目標》

1. 各学校では、創意工夫と新学習指導要領への移行を考慮した教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 保護者や地域の方々と諸問題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研修・研究の機会や場を拡充します。さらに、校種間連携、他市町との広域的な人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 小、中学校の連携
- ② 児童・生徒支援体制の充実
- ③ 学校 ICT 整備事業の推進
- ④ 国府中学校校舎耐震改修

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①小、中学校の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・6月に第1回小・中連携研究委員会を開催し、2年目の取り組みについて協議を行いました。 ・開校記念日等を利用し、小・中学校それぞれの職員が授業を公開し、お互いに参観しました。 ・夏季休業中に中学校教員による出前授業（算数）を小学生対象に行いました。 ・11月より、国府小学校6年生において、国語、社会、算数、理科のそれぞれの教科について、教科担任制を実施しました。 ・「小中連携を意識した外国語活動」の実践を行っている伊勢原市立緑台小学校に視察及び南足柄市の研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校教職員それぞれの職員が授業を公開し、お互いに参観したことは、それぞれの特性や授業内容を知る機会となりました。 ○教員同士の授業参観については、特に小学校教員にとっては、6年生を卒業し中学生になった子どもの変化を知るよい機会となり、その後の情報交換にも役立てることができました。 ○中1ギャップの解消という視点では、教科担任制の導入、小学校6年生の中学校生活（行事・授業・部活動）の見学、中学教師による出前授業等、様々な実践があり、児童・保護者からも概ね満足する

<p>発表大会「幼・小・中一貫教育の実践」に参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府小学校児童が国府中学校の文化祭を見学に行きました。また、その後、6年生は中学校生活を知るために、授業と部活動を見学しました。 ・国府中学校生徒会が国府小学校に出向き、中学校生活についての説明会を開催しました。 ・国府小学校6年生担任と国府中学校教員による情報交換会を開催しました。 	<p>評価が得られています。</p> <ul style="list-style-type: none"> □小・中連携研究のねらいの一つに「小学校での外国語活動のあり方」がありますが、先進市・学校の視察以外に具体的な研究がなされませんでした。次年度は、中学校英語教員の出前授業や電子黒板を使った外国語活動の実践等、中学校の英語教育につなげる実践を行います。 □中学校入学時点での学力格差をみると、小学校時から学習の遅れのある児童については、中学校側に早めにその情報を伝達し、中学校での指導法等についても、個々のケースに応じた早めの対策を講ずる必要があります。
<p>②児童・生徒支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレムを解消し、よりきめ細かい指導を行うため、大磯小学校第1学年で35人学級編制を行いました。 ・「スクールカウンセラー」、「心の教室相談員」を中学校に、「スクールアドバイザー（臨床心理士）」、「訪問教育相談員」を教育研究所に継続配置するとともに、小学校には新たに小学校教諭免許を所有した「小学校指導協力員」を配置することで、児童生徒指導体制を充実させ、配慮を要する児童生徒への支援を強化しました。 ・臨床心理士や県立特別支援学校の地域支援担当教員、言語療法士をメンバーとして相談支援チームを組織し、子ども育成課指導主事とともに幼稚園、保育所、小・中学校への巡回相談を実施しました。 ・中1ギャップ解消のため平成20年度末と平成21年度1学期に小中連絡会を開催し、支援の必要な生徒を配慮をもって中学校に迎えられるようにしました。 ・県教育委員会からの委託を受け、幼稚園、保育所と小学校の連携研究を推進しました。 ・保護者の要望に応え、就学前機関から小学校へ支援の継続を図るために支援シートの作成に努めました。 ・支援教育推進のため教育支援員を増員して配置しました。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○35人学級編制を実施した第1学年では、個々の児童に対し目が行き届き、個に応じたきめ細やかな指導が可能になりました。 ○「小学校指導協力員」を配置したことにより、チームティーチングや個別指導に対応しやすくなり、学習面や生活面で児童の自己肯定感を高めることができました。 ○相談支援チームの巡回相談により、学校（園）の校（園）内支援組織を支援する体制の確立ができました。 ○町全体の不登校児童生徒数は、その数が最も多かった平成14年度からの7年間で41名から20名に半減させることができました。また、病欠欠席者等を含めた長期欠席者数も69名から31名に減少しています。 ○異校種間の連携が図られ、連絡会の開催や支援シートの活用により、入学当初から配慮して支援できる例が増えています。 □きめ細かい指導や個に応じた支援を進めるために、人的配置を継続する必要があります。 □園や学校からは、さらに教育支援員を増員してほしいという声が寄せられます。教育委員会としては、適正な人数の確保と配置に努めると共に、本務者としての職務遂行状況、教育支援員との役割分担等、適正に行われているか検証する必要があります。

		<p>□校種間連携を深め、滑らかな接続を実現することで、進学先学校での不適応を軽減させることがさらに期待できます。</p>
<p>③学校 ICT 整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の緊急経済対策及び雇用対策としての大型補正に伴い、文部科学省が打出したスクールニューディール構想に沿って、各学校・幼稚園にデジタルテレビの設置、また、小・中学校に電子黒板の設置を決定し、7月の臨時議会で補正予算として議会承認を得ました。 ・夏季休業中に、電子黒板の機能を理解する目的で、3社のメーカーから小・中学校教職員向けに説明会を実施しました。 ・12月にデジタルテレビ84台の入札を実施し、新たな「財産の取得」についての議会承認を得ました。 ・1月に機種選定委員会のメンバー5名により、東京の私立学校2校、相模原の公立小学校1校に電子黒板を使った授業実践の様子を視察に行きました。 ・2月に電子黒板18台の入札を実施し、新たな「財産の取得」についての議会承認を得ました。 ・3月末に幼・小・中へのデジタルテレビ及び小・中への電子黒板の設置が完了しました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平成22年度以降の整備を考えていた中で、今回の国の大型補正を活用することにより、前倒して整備できたことは財政的にも非常に効率がよく、次年度以降の他の教育予算についても反映させることができました。 ○夏季休業中に各学校の教職員に対し、事前に電子黒板の機能について説明を受ける機会を設けたので、導入後の各学校での研修会もスムーズに行うことができました。 ○デジタルテレビの使用については、パソコンと連動させての使用やDVDの視聴など幅広い活用が期待できます。また、電子黒板は今までの授業形態や授業形態等を大きく変えるツールとして、その活用が大いに期待できます。 □今後は、同時に整備した周辺機器等の活用等についての研修も必要となります。 □デジタルテレビ、電子黒板の活用については、今後の活用研修いかに大きく左右されることから、平成22年度の重点課題と捉え、研修計画を十分に練る必要があります。
<p>④国府中学校校舎耐震改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府中学校校舎耐震改修工事を行い、鉄骨ブレース1箇所、耐震スリット31個所の耐震補強工事を実施し、B棟のIs値を0.52から0.83に上げました。 ・外壁改修、屋外防水、トイレ改修、空調工事を実施し、快適な教育環境を提供しました。 ・夏季休業中の工事を予定しておりましたが、夏季休業中にすべての工事工程を修了することが難しく、学校現場、教育委員会、設計会社、施工業者と綿密な工程打合せを行い生徒の安全に配慮してまいりました。 ・環境教育に配慮し、太陽光発電設備を設置いたしました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○耐震改修工事については、安全で安心な教育環境を提供すると共に、生徒、教員に快適な教育環境を提供することができるようになりました。 ○今年度の国府中学校及び国府幼稚園の耐震工事をもって、全ての学校施設の耐震化が終了しました。 □工期中の天候の不順もあり、当初予定していた工期よりも若干の遅れが生じ、2学期の授業や行事に多少の影響がありました。 □政権交代により、太陽光発電設備の国庫補助金交付決定が1月になり、全国的な太陽光発電設備一斉発注による品不足となったため太陽光発電設備が年度内に完了できませんでしたが、平成22年6月に完了しました。

(3) 教育委員による評価

①小、中学校の連携

<p>評 価</p>	<p>新しい教育課程が実施されるこの時期に、小学校から中学校への接続は、子どもたちにとっても、教師にとっても大変重要である。研究協議会の中では、平成20年度の課題を踏まえ、小学校・中学校がお互いの年間計画に基づき各教科・領域についての意見交換による情報交換を行い、それぞれの教職員の授業公開・参観、中学校教員による小学校への出前授業を実施したことは十分評価できる。</p> <p>また、教員に限らず子ども同士の交流、さらには、先進校の視察など様々な試みを行っていることも評価できる。</p> <p>ただ、交流・連携が一部の教科・領域に止まっていること、また、課題として記載しているように学力格差解消に向けた検討が不十分な点はマイナス評価である。従って、B評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>児童・生徒の連続的な学びと成長を図るといふねらいを達成するためにも、交流・連携を拡充するだけでなく、内容面での充実を図るべきである。例えば、中学校英語教師が小学校の外国語活動で授業を行う場合は、事前に教員同士のコミュニケーションの場を増やし、中学校教員は「小学校外国語活動」の意義や目的、中学校との接続などをしっかりと確認して臨む必要がある。</p> <p>また、小・中連携研究会については、学力格差解消のための対策等を行うため、年度当初に開催するなど開催時期、内容についての改善を検討すべきである。さらに、本施策は、平成22年度が3年目の節目となることから、過去2年の実績を再整理し、成果・課題についての「傾向と対策」を明確化すべきである。</p>

②児童・生徒支援体制の充実

<p>評 価</p>	<p>ティームティーチングや個別指導などきめ細かな指導により、学習をサポートすることの重要性から35人学級を実現し、児童・生徒は自己肯定感を高めることができた。また、中1ギャップ解消のための異校種間連携や児童生徒指導体制の充実を図り各関係機関と連携、さらに、相談員や支援員を配置することにより、不登校児童生徒の出現率の低下が見られたことは評価できる。</p> <p>ただ、7年間で不登校児童生徒数、長期欠席者数が半減したことを効果ありとしているが、平成20年度との比較での成果・課題を明記すべき、また、7年間の変遷の中で評価すべきであり、中1ギャップ解消との関連付けも評価すべきである。</p> <p>また、不登校の減少は、諸施策を行うだけでなく他との有機的な連携が取られた成果であると考えられるから、様々な施策を個別に考えるのではなく、常に大きな目標を念頭に今後とも内容の充実に努めるべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>中1ギャップには中学1年生でいじめや不登校という現象面と、小・中学校間の制度や教職員の指導等のギャップという2つの面がある。この問題を解消するには、「児童生徒へのきめ細かな指導、学年や校種を超えて一貫した指導、家庭や関係機関との連携」の3つが機能することがポイントである。このような観点から支援シ</p>

	<p>ート(例えば、小中連携シート、個別支援シートなど)の充実を図り、小中連携研究会など各活動と連動して取組むことが必要である。</p> <p>また、きめ細かな指導や個に応じた支援のための人的配置は必要であるが財源をどう確保するかという課題では、指摘されているとおり、先ず本務者の営み(職務遂行状況など)を再検証し、その上で適正配置に向けた検討を行うべきである。個に応じたきめ細かな指導を行うために最も核になるのはいうまでもなく担任をはじめとする本務者であることを押さえた上で、適正な数を確保すべきである。</p> <p>今後は、即時の対応が求められることも多くなることが予想されるので、校長がリーダーシップを発揮し、校内の支援体制を明確にするとともに、教師間及び家庭との連絡・連携を密にし、日ごろから即応体制を整えておくことも必要である。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③学校 ICT 整備事業の推進

評 価	<p>政権交代の影響で難しい局面もあったが、学校 ICT 環境整備事業を活用し、電子黒板等を導入したことにより、わかりやすい授業の実現や子どもたちの情報活用能力の育成を図る環境を整備したことは評価できる。</p> <p>ただ、交付決定後の事務の進め方に課題が残り、機器の設置が年度末ぎりぎりとなり、試験運用が年度内にできなかった点は反省すべきである。従って、B 評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>授業の効率性、わかりやすい授業の実現や子どもの情報活用能力の育成の実現には、教職員がこれらを十分に活用できることが必要である。また、使用頻度や活用方法等が教科によって異なることも考えられ、そのための研修が重要である。課題で指摘されているとおり早期に研修計画を策定、実施することが望ましい。</p> <p>また、人的な面に加え、教職員一人一台のパソコンの配置や校内 LAN の一元化等物理的な環境整備も重要であり、そのための予算確保も必要である。</p>

④国府中学校校舎耐震改修

評 価	<p>万が一の災害に備えての工事が完了し、耐震基準の Is 値≥ 0.6を確保したことは学校が地域の緊急避難所としての役割を担っていることから十分に評価できる。また、併せて、その他の修理箇所も工事を実施し、より良い教育環境が整えられたことも評価できる。</p> <p>ただ、業者の都合や自然現象のためとはいえ、作業が遅れ、2 学期の授業等に影響を与えたことは課題として反省すべきである。</p>
改善事項等	<p>工期内に完了できなかったことについては、施工会議などにおいて進捗状況を把握し適切な指示を出すべきであった。今後も教育委員会所管の工事が想定されるが、再発防止に努めるべきである。</p> <p>また、太陽光発電に対する子どもたちの興味関心を高め、エネルギー問題等環境教育にも積極的に取り組めるよう学校(教職員)への働きかけが重要である。</p>

2 子育て支援

《基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

《目標》

1. 幼稚園では、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせたねらいを定め、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられるまちを目指します。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できるまちを目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 次世代育成支援地域行動計画策定
- ② 子育て支援総合センター整備
- ③ 幼稚園保育園の連携
- ④ 町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致
- ⑤ 月京幼稚園整備

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>①次世代育成支援地域行動計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現計画を改定し、平成22年度から平成26年度までの後期計画を策定し、その期間の子育て支援施策の方向性を示しました。 ・後期計画の素案づくりに向け、次世代育成支援対策地域協議会を4回開催しました。 ・福祉文教常任委員会での報告、社会福祉委員会での説明会を行うとともに、パブリックコメントを10日間実施し、計画の中に反映させました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3月に計画どおり策定できたことにより、平成22年度から平成26年度までの5年間における、新たな子育て支援施策の方向性を示すことができました。 ○事前に実施したアンケート結果から、子ども・子育てで家庭を取り巻く現状を把握し、行動計画等に反映させることができました。 □計画策定開始が遅れたため策定期間が短くなったことにより、次世代育成支援対策地域協議会の開催回数を増やすことができませんでした。またパブリックコメントの募集期間も短かったため

		応募数も少なく幅広く意見を聞くことができませんでした。
<p>②子育て支援総合センター整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月より（仮称）子育て支援総合センターの予定地の整備を行い、10月より仮設工事に入りました。 ・12月より躯体工事、内外装工事、外溝工事、設備工事等を実施し、年度内完成を目指しました。 ・建設に係る調整会議を計17回開催しました。 ・住民説明会を3回開催しました。 ・「大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター」の設置に伴う条例が議会で承認されました。 ・3月議会で承認された設置条例に伴う「大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター条例施行規則」の制定（4月の教育委員会定例会に付議）に向け、準備を進めました。 ・ファミリーサポートセンターの会員を募集しました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「つどいの広場」「相談事業」等の子育て支援センター機能を備えた施設の完成により、保護者の交流が図れ、子育てにおける相談支援の拠点ができました。 ○ファミリーサポートセンター開設、また、「子どもの育て方としつけ」「親としての自覚とマナー」等についての講座・教室及び子育て経験者との懇談会等を実施する準備ができ、今後のニーズの高まりが期待できます。 ○西部地区に続き、東部地区における「つどいの広場」設置についても検討を進めてまいります。 □開発許可申請等の許可決定の遅れ等から、当初の予定より1ヵ月遅れて完成が平成22年4月になりました。
<p>③幼稚園保育園の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立私立の幼稚園保育園の交流を図りました。将来的な幼稚園保育園の一元化に向けて研究しました。 ・平成21年度中での月京幼稚園、国府保育園との交流を49回行いました。 ・平成22年4月開園の「たかとり幼稚園」と国府保育園との交流については、距離的に近いこともあり、平成21年度中に、日常的な交流の計画を立てました。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○公立幼・保については機構改革により幼稚園保育園が同じ所管になったこともあり、園長・教頭会で幼保連携を話題にし、園児の交流活動も積極的に行うようになりました。 □幼稚園保育園の一元化に向けての研究は議論が熟成できず成果が上がりませんでした。 □平成22年度については、たかとり幼稚園と国府保育園の交流を具体的に進めていきます。
<p>④町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年3月の教育委員会定例会において、改めて、町立幼稚園の将来構想について協議を行った結果、「平成23年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とし、跡地に私立幼稚園を誘致する」という方向性を打出しました。 ・4月に福祉文教常任委員会において、これまでの経緯と今後の予定について報告をしました。 ・5月より、計7回の作業部会（小磯幼稚園園区の保護者と事務局による会）を実施し、保護者からの具体的な要望・課題について検討しました。 ・作業部会と連動する形で「大磯町立幼稚園統合検討委員会」を計3回開催し、作業部会からの案件の精査、 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○5月から開催した作業部会において、平成23年度から3ヵ年の間に誘致した私立幼稚園に入園を希望する保護者の様々な要望・課題を整理し、検討委員会につなげることができました。 ○検討委員会でまとめた内容を教育委員会や議会に報告し、そこでの意見を検討委員会や作業部会でさらに検討することにより、より具体的な条件整備ができました。 ○私立幼稚園誘致に向け、事前アンケートの実施等により、次年度の私立幼稚園選考委員会の設置に向けての準備ができました。 □平成24年度以降の状況があいまいであることや

<p>私立幼稚園誘致に係る課題等を検討しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から小磯幼稚園園区保護者・小磯地区・全町民向けの説明会を開催しました。 ・平成23年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とする条例改正が議会で否決され、1年先送りの案である平成24年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とする条例改正が3月議会で承認され、私立幼稚園誘致のための方向性が示されました。 	<p>全町的な説明会を実施していない等の理由から一旦は議会で否決され、平成23年3月の小磯幼稚園の廃園及び4月からの私立幼稚園の開園という計画が結果的に1年先送りとなりました。</p> <p>□今後の私立幼稚園選考委員会では、私立幼稚園誘致のための条件整備や選考方法等の具体的な内容についての検討が必要となります。</p>
<p>⑤月京幼稚園整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学大磯病院の拡張計画に協力することにより、大磯町生沢に幼稚園を移転し整備しました。 ・6月に工事請負契約締結の議会承認を得、7月より工事に着手し、年度内完成を目指しました。 ・新幼稚園の名称を決定するため選考委員会を開催し、「たかとり幼稚園」に決定しました。 ・建設に係る調整会議を37回開催しました。 ・工事に係る生沢住民に対する説明会を2回、入園、園区、通園方法等に関する保護者説明会を2回開催しました。 ・12月議会において、「たかとり幼稚園」への名称変更の議会承認を得ました。 ・平成22年4月3日に竣工式を執り行いました。 	<p>C</p> <p>○新幼稚園の名称を公募により決定することができ、地域にゆかりのある「たかとり幼稚園」と命名できました。</p> <p>○園舎設計のコンセプトにあったように、園児の安全性を第一に考え、木の持つ温もりや採光・通風を考えた居心地の良い空間を前面に出した幼稚園が完成しました。</p> <p>□外構工事については、3月の天候不順のため完成が4月2日になりました。</p> <p>□太陽光発電設備工事については、国庫補助金の交付決定の遅れ及び全国的な一斉発注による品不足で工事を完了することができませんでした。</p>

(3) 教育委員による評価

①次世代育成支援地域行動計画策定

<p>評 価</p>	<p>現計画を改定し、後期の5カ年計画が単なる少子化対策に止まらず子どもに関する政策、施策を総合的に推進するための次世代育成支援地域計画について、子育てを取り巻く社会環境やニーズの変化、前期行動計画の状況等を踏まえ、住民と行政一体となってより良い子育て支援環境を目指した計画の見直し・策定ができたことは評価できる。</p> <p>また、アンケート調査、パブリックコメントの実施や議会への報告など幅広く周知したことは評価できるが、一方で、計画着手が遅れたことがパブリックコメントの募集期間にも影響し、幅広く反映できなかったことは反省すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>今後は、アンケート結果に見られる子育て支援に対する多様な要望について柔軟な対応が必要である。そのためにも、日ごろから点検・見直しの視点を持って計画を実施していく必要がある。</p> <p>また、平成21年度に新たに子育て支援室が新設され、人事異動及び業務の移行等、物理的な要因はあったものの、重要な案件への取組みが遅れたことは反省すべきである。パブリックコメントの件数も3件と少なく、計画へのフィードバックができ</p>

	たとは言いがたい。今後、他の計画策定などにおいてもスケジュール管理を徹底してすすめることが重要である。
--	-----------------------------------------------------

②子育て支援総合センター整備

評 価	<p>孤独になりがちな子育ての時期に、母子ともに人とふれあえる環境ができたことは、家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりや多様な保育サービスなど子育て支援を目指す基盤ができたことは評価できる。</p> <p>また、工事から関係規則の制定まで精力的に取り組んだことは評価できるが、様々な要因があるとはいえ、年度内完成を厳守すべきであった。従って、B評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>寄付者の意向を取り入れた運営の工夫やファミリーサポート機能を含め、多くの利用を促進するためのPR活動（センターだより等の発行）に積極的に取り組むべきである。また、「つどいの広場」「各種講座及び教室」の開催にあたっては、参加者の自主的活動へとつながるよう努めるべきである。</p> <p>また、東部地区における「つどいの広場」設置については、子育て支援総合センターの状況も参考とし十分検討していくべきである。</p>

③幼稚園保育園の連携

評 価	<p>機構改革に伴い、幼稚園・保育園が同じ所管になったことのメリットを十分に生かし、お互いに教育的観点から補完しあい、幼児の指導を進めていくことは相互に良い影響を与えるものと思われる。特に、小学校の通学区域等を考慮して連携することはより一層効果的であるといえ、その点でこの取り組みは評価できる。</p> <p>また、月京幼稚園と国府保育園の交流が49回実施されたことは評価できるが、たかとり幼稚園と国府幼稚園との交流については、平成22年度の年間事業計画策定時に連携事業を組み入れ、これに基づき具体的に進めると記載すればなお良かった。</p>
改善事項等	<p>幼稚園保育園の連携をより効果的にするため、いわゆる幼保一元化とは切り離し、お互いの職員同士が地域の子どもを育てるという共通認識のもと協力して進めていくべきである。</p> <p>幼・保一元化については、それぞれの設置運営基準や教育内容を法律的に見直すなど多くのハードルがある中で議論することはあまり得策とは言えない。現在、総花的な議論になっている点を改め、現行の法律のまま、幼稚園・保育園を同一敷地内に設置し、職員や幼児同士の交流や施設の共同など、教育内容を合わせて教育、保育する「幼稚園保育園の一体化」の議論を行うべきである。</p>

④町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致

評 価	<p>紆余曲折の末、長年の懸案事項であった町立幼稚園の統合問題が、大磯町立幼稚園の将来構想に基づき、各関係機関と鋭意折衝を重ね東部地区(大磯・小磯幼稚園)に</p>
-----	------------------------------------------------------------------------------------

	<p>おける統廃合及び私立幼稚園の誘致の方針が決定され、誘致に向けての条件整備ができたことなど十分評価できる。</p> <p>ただ、様々な要望や課題についての整理と分析が結果的に活かせず計画が1年先送りとなったことはその進め方に課題が残り反省すべきである。従って、B評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>今後は私立幼稚園誘致に向けての条件整理や選考方法など具体的な内容の検討が必要となるが、様々な要望や課題を的確に整理、分析し、関係者と協議を図りながら計画達成に向け進めていきたい。</p> <p>引き続き、保護者の不安を解消するためにも、できる限り誘致に向けての進捗状況を周知していく必要がある。</p> <p>また、西部地区についても東部地区の状況を踏まえ、適切な時期に検討していく必要がある。</p>

⑤ 月京幼稚園整備

評 価	<p>平成22年4月開園に間に合ったことや、地域に相応しい名称も命名でき、この点は評価できる。また、地域住民への説明会など保護者や住民に配慮しながら事業進行したことは、開園後のことも考慮すると適切であった。</p> <p>ただ、色々な要因はあったにせよ年度内竣工ができなかったことは反省すべきである。従って、C評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>今後は、園舎設計、建築のコンセプトを生かした幼稚園運営、保育実践を期待したい。また、今後のたかとり幼稚園と国府保育園との交流については、平成22年度の年間事業計画策定時に連携事業を組み入れ、幼稚園・保育園連携について具体的に取り組むべきである。</p> <p>課題としては、太陽光発電設備工事を含め、年度内に完成しなかったことを今後にかさねすべきである。</p>

3 生涯学習

《基本方針》

「思いやりのある心豊かな人づくり」を目標に「生涯を通して学習できる環境づくり」を施策の方針として、生涯学習施設の有効利用と学習機会の充実に努めるとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

1. ライフステージに応じた学習機会や情報提供を推進するとともに、自主学習支援体制の充実、青少年の健全育成、芸術・文化活動の活性化を図ります。
2. 人権に対する正しい理解と認識を深め、差別や偏見のないおもいやりのある「まち」を目指します。
3. 文化財・埋蔵文化財の保全を図るため、資料収集及び保護・活用を推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 生涯学習館の有料化及び利便性の向上
- ② 生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催
- ③ 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①生涯学習館の有料化及び利便性の向上 ・施設の利便性向上を図るため、休館日の見直しを行いました。 ・全庁的な施設の有効活用を図るための検討を踏まえ、使用料設定、町内外別料金、減免規定等について検討しました。 ・施設有料化に際し、大磯町生涯学習館条例および大磯町生涯学習館条例施行規則の所要の改正に係る手続きを進めました。 ・施設有料化実施を平成22年6月からとし、実務上必要な準備作業を進めました。	A	○利用者へのサービス向上の一環として、平成21年6月から、毎週月曜日休館から、月1回（第4月曜日）のみの休館に改めることにより、利用の拡大を図ることができました。 □有料化に向けた実務上の準備作業は22年度へ継続していきます。
②生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催	A	

<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習人材登録者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システムへの登録作業を行うとともに、町ホームページでの情報提供の整備を進めました。 生涯学習の機会を希望する人にとって活用しやすい台帳の整備を進めるとともに、サロン・ド・カルチャー制度等との整合を図りました。 町民の生涯学習への要望に応えるべく各種講座の開催を行いました。 熟年世代を対象としたOISO学び塾、移動科学教室や生涯学習人材登録者活用講座等を新たに開設し、また、パソコン講座の開催回数の増加を図り、あらゆる世代を対象とした講座等を開催しました。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習人材登録への申込者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システム（生涯学習情報が検索できる PLANET かながわ）への登録作業を行い、また町ホームページでの検索コーナーの整備等により、利用しやすい環境の提供が可能となりました。 ○制度の周知及び利活用を図るため、既存のサロン・ド・カルチャー制度と人材登録制度との連携を実施しました。また既登録者にアンケート調査を行い、町民の学習要望に即した生涯学習講座を開催し、人材登録制度の活用を図ることができました。 □今後もアンケート調査等により講座参加者の要望を把握し、講座等の企画に反映させていく必要があります。
<p>③ 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された資料の整理を行いました。 文化財資料の保存と周知活用の用に供するため文化財調査報告書を刊行しました。 町内文化財の周知を図るため、東部地区における指定文化財案内看板の整備を行いました。 文化財を火災から守るため、施設防火点検及び消火訓練・搬出訓練を行いました。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急雇用創出事業を活用し、文化財等資料整理委託を実施することにより資料整理の促進を図ることができました。 ○大磯町文化財調査報告書第 48 集『慶覚院蔵木造地蔵菩薩坐像』を刊行しました。 ○文化財の周知啓発等の促進を図るため、町内（東部地区）に存在する指定文化財について、案内看板 15 基を設置しました。 ○旧吉田茂邸の焼失から 1 年を経た 3 月に初の試みとして、消防署・消防団による文化財消防訓練を開催したことは、文化財保護の観点から大変有意義なことでした。

(3) 教育委員による評価

①生涯学習館の有料化及び利便性の向上

<p>評価</p>	<p>休館日を見直し施設利用の利便性を図ったことにより、その利用状況は対前年度比 12%増であり(6月以降の9ヶ月間で)、平年度ベースに換算すると 45%の大幅な利用増が期待でき、この点では評価できる。</p> <p>ただ、実務上の準備作業を 22 年度も継続する必要があるとしているが、21 年度行った準備作業についての総括を行い、積み残しとなった項目についての明記が欲しい。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>有料化へ向けた実務上の準備作業を滞りなく行うことと住民への周知を十分行うことによりトラブル等のないように努めるべきである。</p>

	<p>また、平成 22 年 6 月からの有料化に向けた準備作業を進め、平成 22 年度も継続して進める必要があるとしているが、平成 21 年度実施した作業項目全てについての検証を行い、その成果と課題を明確にし、平成 22 年度に継続する内容を具体的に提示すべきである。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催

<p>評 価</p>	<p>町民の学習要望に即した生涯学習講座を開設したことは、受講者のみならず、人材登録者の研鑽の場にもなり十分期待が持てる。また、町生涯学習人材登録と神奈川県生涯学習情報システム (PLANET かながわ) とのリンケージや町 HP の整備などの活動は平成 20 年度からの継続活動であるが、平成 20 年度の改善事項を踏まえ他の制度との連携を図り進めた結果、利用者ニーズに応えた展開ができたことは評価できる。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>住民の学習ニーズを常に把握し、それに応えるような講座等の企画に反映させるべきである。また、生涯学習課としての新企画提案も積極的にすべきである。</p> <p>また、本制度が少しずつ充実、定着しつつあるとはいえ、未だその制度の認知度は低いと考える。町広報紙等色々な機会を利用し、人材の掘り起こしと魅力ある講座の開設に向けたニーズの把握に努めるべきである。</p>

③文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用

<p>評 価</p>	<p>文化財調査報告書第 48 集の刊行、東部地区の指定文化財の案内板を設置できたことは評価できる。このような作業は、今は日の目を見なくても、着実に整備を継続していくことに意味がある。</p> <p>また、国の平成 21 年度一次補正予算の基金を利用し、町の文化財等の保存に向けた取組みができたことや町内文化財の周知や啓発活動など所期の目的どおり遂行できたことは評価できる。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>初の試みである消防署、消防団との文化財防火訓練は継続的に実施したい。</p> <p>本基金は平成 23 年度までの 3 ヶ年の基金であり、平成 22 年度以降も有効に活用するため、対象文化財・埋蔵文化財のプライオリティー付けによる活動に努めるべきである。また、その活用方法については郷土資料館など関係機関と連携し検討すべきである。</p>

4 図書館

《基本方針》

図書館は、町民の知る自由の保障及び情報提供活動の向上を図り、町民の知的要求や活動形態の多様化に対応するよう図書館サービスを展開するとともに、「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づく、大磯の子どもたちの読書環境の整備に努めます。

《目標》

1. 「より便利に、より自由に、より役立つ」図書館を目指し、安全で快適な環境づくりと、人と資料を結び町民の多様なニーズに応えた利用促進を図るとともに、町民との協働により図書館活動の活性化と町民の生涯学習活動の支援を図ります。
2. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書に親しめる環境、親しむ環境の整備に取り組むとともに、教育機関との連携を図ります。
3. 地域・行政資料の収集整理と資料の活用を図り、郷土資料館との連携のもと、地域情報の提供に努めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①図書館利用サービスの向上
- ②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進
- ③地域資料の活用と地域情報の提供

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①図書館サービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館本館での昼食スペースとして、H21.5月の連休明けから、外から出入りできる町史編纂作業室を午前11時から午後2時までの時間、開放しました。 ・図書館本館の開館時間をH21.6月から、午前9時30分を午前9時に拡大しました。 ・図書館会議室等の使用について、H21.12月議会において図書館の設置、管理条例の一部改正条例が承認され、H22.3月教育委員会定例会においては規則の一部改正条例が承認されました。 ・図書館協議会においてH21.6.18に近隣の図書館窓口の業務委託状況について視察をしました。 ・ふるさと雇用再生特別交付金を活用した、「図書館“知”の拠点づくり事業」が承認され、図書館窓口等の業務委託をH22.1.5から開始しました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館単独施設としては珍しい、昼食スペースを作ることができました。 ○条例規則の改正を行い、次年度から全施設の統一的な施設利用が見込めることができました。 ○図書館窓口業務等の業務委託により図書館業務の効率化を図ることができました。 □昼食スペースには防犯カメラの設置がなく、今後カメラの導入を検討する必要があります。 □H22.1.5から開始した窓口業務等委託では、国府分館は対象館としなかったため、分館は直営となっています。H24.3月以降の図書館窓口等の業務委託について早期からの検討が必要です。

<p>②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生の学級招待（大磯小学校6月、国府小10月）、幼稚園・保育園の年長児の図書館見学、ブックスタート（全6回）、おはなしと紙芝居等、各事業を実施しました。 ・スタンプラリー2009（H21.4.23～H22.3.31）に約180名の参加がありました。 ・おはなしの入門講座を全4回で開催し、毎回約20名の参加がありました。 ・児童文学者のお話を親子で聞く児童文学講演会を開催し15名の参加がありました。 ・講座、講演会の受講者にアンケート調査を実施しました。 ・寄贈本の学校提供を行いました。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づいた各事業を円滑に運営しました。読書に親しむことができる環境を整備することで、読書の楽しみや大切さを子どもたちに伝えることに努めました。 ○昭和62年から継続している小学校4年生対象の学級招待事業も20年余経過し、子どもたちにとって図書館の存在が明確になってきています。 □大磯町子ども読書活動推進計画の基本方針としていた県計画の更新を視野に入れ、第2次計画策定を検討する必要があります。 □本を読む子と読まない子の差が大きく、読むことへのきっかけづくりのブックトークを学校図書室と連携していく必要があります。
<p>③地域資料の活用と地域情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21.3に刊行した大磯町史ダイジェスト版を600冊増刷しました。 ・生涯学習課と連携し、町の歴史に親しむ大磯町史ダイジェスト版刊行記念講座を3回開催しました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果にも町の歴史に興味があり、講座の開講を望む声が多く寄せられています。 □集積した町史関連の人材と資料類の活用を検討する必要があります。

(3) 教育委員による評価

① 図書館利用サービスの向上

<p>評価</p>	<p>利用者の多様なニーズに応え、開館時間の拡大による住民サービスの向上は、読書環境の充実の観点から意義あることである。また、昼食スペースの設置は利用者の利便性が一層高まった。しかし、一般的に図書館では飲食が禁止されているところがほとんどで、他の利用者に戸惑いが出ないように周知することも必要である。</p> <p>さらに、平成20年度の改善事項を踏まえ、図書館施設の条例・規則の改正ができたこと、国の平成21年度一次補正予算の基金を利用し、図書館窓口等の業務を民間委託することにより業務の効率化が図られたことは評価できる。</p> <p>しかし、基金の額の関係から国府分館は対象外となったことは分かるが、平成22年度からの国府分館を盛込むか否かの検討の軌跡も記すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>昨年度指摘された「利用者の声を聞く」（アンケート）について、窓口業務の委託に関する利用者の声を把握するためにも早急の実施すべきである。また、安心・安全の観点から、防犯カメラの設置は重要課題である。</p> <p>また、本基金は平成23年度までの3カ年の基金であり、課題として指摘されているように平成24年度以降は、本業務委託の可否も含めた論議が必要である。従って、平成22年度から現行委託内容の精査と国府分館の在り方など検討を行うことが必要である。</p>

②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進

<p>評 価</p>	<p>子どもたちの発達段階に合わせ、本への興味や読書するきっかけづくり等、事業活動の工夫により、読書の楽しさを継続的に体験できることは大変良いことである。特に、小学校4年生の学級招待20余年の実績は大いに評価できる。また、「大磯子ども読書活動推進計画」に基づき、様々な取組みを実施し、所期の目的を達成できたことは評価できる。</p> <p>ただ、アンケート調査から得られた成果、課題の提示と対応についても記述すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>大磯町子ども読書活動推進計画の第2次計画策定にあたっては、県の計画の更新を踏まえ、新たな課題等も把握しながら取り組むべきである。その際、小学校4年生対象の学級招待事業に関しても、その軌跡を総括し、新たな方向性の検討も必要である。</p> <p>また、本を読む子と読まない子の差が大きいとの課題については、子どもの個性に起因するところもあり、本を読まない子を対象としたヒアリングを含めた調査も一つの方法であり、本を読む子とは異なるツールでの啓発も検討すべきである。</p>

③地域資料の活用と地域情報の提供

<p>評 価</p>	<p>大磯町史ダイジェスト版の増刷により町民や各関係者に対しPR活動を行うほか、関連各課と連携し記念講座を開催するとともに、町民のニーズに応える活動を実施したことは評価できる。</p> <p>ただ、ダイジェスト版の増刷が「どのように利用されその効果はどうだったか」の分析結果がほしかった。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>町史の歴史講座は町民の興味・関心も高く、継続的に開催してほしい。また、地域資料の活用を図り情報提供するために、郷土資料館とも連携し、大磯町ゆかりの人物に関する学習講座等の開設を要望したい。</p> <p>大磯町史ダイジェスト版増刷の「利用のされ方及び効果」についての分析をすべきである。また、平成20年度の課題では、歴史的資料の保存、活用の検討が必要とされており、改善事項でも同様な指摘がされているにもかかわらず、平成21年度においても同じ課題が記載されている。これまでの検討状況を踏まえ、平成22年度における検討へのフィードバックを行うべきである。</p>

5 郷土資料館

《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及活動を行うとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、地域住民にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①郷土資料館リニューアルプランの推進
- ②文化財資料等の保存・活用
- ③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>①郷土資料館リニューアルプランの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度において、資料館としてのさまざまな課題を含むリニューアル基本方針は作成済みですが、21年度は利用者からの声を直接聞き、今後のリニューアルプランに反映させるためにアンケート調査を実施したほか、引き続き、施設修繕の長期的な見直しを行いました。 ・リニューアルの構想にあわせて、城山公園や運動公園との連携を図るため大磯町公園施設等連絡会を立ち上げました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○大磯町内外、各世代から順調に回答を得ていることから、平成 22 年度においても継続してアンケートを実施し、リニューアルプランに反映させていきます。 ○スタンプラリーを実施するなど、リニューアルに向けて、各施設の連携を深めるとともに、利用者への施設周知が有効に作用し、入館者増にもつながりました。 □企画展開催期間中にアンケートを実施した場合、企画展に対する回答が目立ち、本来の設問主旨から若干離れてしまう傾向がみられるため、アンケート実施時期の設定に苦慮しました。また、アンケートの設問内容にも若干の検討課題がみられました。
<p>②文化財資料等の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館で受託中の大磯町指定有形文化財である木造神像（11 軀）について、毎年 1 軀ずつ保存処理を実施しています。21 年度においては、5 軀めとなる男神立像の保存処理を委託実施しました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保存処理の実施により、今後の展示・教育普及活動等にも活用可能な状態となりました。 □今後は、さらに状態の悪い個体、あるいは大型の個体となるため、費用がこれまでよりもかさむことが予想されます。

<p>③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤博文没後 100 年の節目にあたり、伊藤博文の生涯と多くの業績をたどるとともに、伊藤博文と滄浪閣、大磯とのかかわりを中心に焦点をあてた展示を開催しました。 ・関連事業として、記念講演会 2 回、伊藤博文墓所をめぐる史跡ツアー 1 回、長州ファイブ上映会 6 回、ミュージアムトーク 44 回などを開催しました。なお、あわせて、ポスター、チラシ、展示図録を刊行しました。 	AA	<ul style="list-style-type: none"> ○伊藤博文に関わる資料が目録化され、関係者・関係機関など幅広いネットワークを持つことができました。 ○展示入館者数や図録の販売数が予想を大きく上回る盛況であった他、神奈川県湘南地域県政総合センターの地域課題調整費により財政的な支援を受けることができたため、積極的に事業を推進することができ、町の PR や観光客の誘致にもつながりました。 □伊藤博文にかかわる資料のほとんどが個人所有であるため、今後の資料保存が懸念されます。また、今後の資料館活動の中で、伊藤博文をどのように位置づけ、生かしていくのか、リニューアル構想と関連付けて検討していく必要があります。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 教育委員による評価

①郷土資料館リニューアルプランの推進

評 価	<p>リニューアルプランの内容の充実に向けて、大磯町内外、各世代から幅広く意見・ニーズを収集するほか、各施設と連携しそれぞれの機能と位置づけを理解するなどリニューアルプラン策定へフィードバックしたこと、また、城山公園など関連施設と絡めた在り方の検討に着手したことは評価できる。</p> <p>ただ、アンケート調査について、できるだけ多く収集したい意欲は理解するが、アンケート調査の取り方などにももう少し工夫があっても良かった。</p>
改善事項等	<p>基本設計が出来上がった時点で、町民、利用者等の声を把握するための方策を立てるべきである。また、リニューアルプラン策定にあたっては、郷土資料館単体で考えるのではなく、城山公園など関連施設一体とした「全体像」と、全体像の中の「郷土資料館単体のあるべき姿」を併せて検討することが重要と考える。平成 21 年度立ち上げた連絡会などを有効に活用すべきである。</p>

②文化財資料等の保存・活用

評 価	<p>保存処理や復元に対する財源の裏づけが厳しい中、計画的な木造神像の保存処理の実施は評価できる。町の財産である文化財等の保存活動は、地道な活動であるが継続して実施していくことが重要である。</p>
改善事項等	<p>経費については、予算獲得の努力を続けるべきである。また、できるだけ多く・早く文化財を保存していくべきであり、今後の保存処理については、他の施策も睨みながらの展開も必要である。</p>

③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施

<p>評 価</p>	<p>記念事業実施にあたり、関係各方面への協力依頼や財政的援助を得るなど努力のあとが伺える。その結果として入館者数 7,000 名増など予想を大きく上回る成果があった。また、本事業実施の過程で得た「人や関係機関」は大きな財産となり、文化都市大磯、観光立町大磯に大きく貢献できたことは評価する。また、NHK 総合「NHK スペシャル プロジェクト Japan 日本と朝鮮半島」において伊藤博文の特集が組み入れ、改めて本事業の成果を認識したところである。従って、AA 評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>図書館と連携した事業として、大磯町ゆかりの人物等を紹介する企画展を継続的に実施していくことを期待する。</p> <p>すばらしい功績のある伊藤博文にゆかりのある資料のほとんどが学校・個人所有で、適切な場所での保存が必要である。また、伊藤博文の椅子(小学校所蔵)など町所有の資料について保存状態が悪いものが散見されることから、後世に伝えるためにも資料館のリニューアルと関連付けて検討すべきである。</p> <p>また、課題にあるように、本事業の結果を踏まえ大磯町として伊藤博文をどのように位置づけていくのか、今回得られた人脈などのネットワークをどう活かしていくのか、また、これらの意見も参考にするなどリニューアルプラン構想とも併せ検討すべきである。</p>